

人材サービスのウィルグループ子会社、セントメディア（東京・新宿）が日本で仕事を探す外国人留学生と人手不足に悩む日本企業の仲介に力を入れている。2017年8月に始めた外国人留学生向け求人サイト「ファインドワークスジャパン」の立ち上げから関わる橋本竜平（28）は持ち前の行動力で新事業を軌道に乗せようと汗をかく。

# 旬材 逸材

「働く意欲がある留学生と人材を探している企業を結びつける事業にニーズがあるのではないか」。セントメディアが17年1月に発足させた新規事業準備室は外国人・シニア・女性向けの人材サービスや、企業の人事労務管理を効率化する「HRテック」など事業にできそうな複数の案を検討していた。派遣事業の取引先の多様な要望に答えられる人材関連サービスを模索する狙いもあった。

## 外国人学生 企業と結ぶ

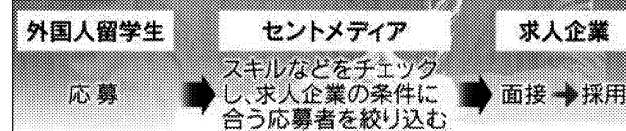
橋本 竜平  
メディアテック事業部



はしもと・りゅうへい 2017年大阪府立大卒、セントメディア入社。派遣コールセンター事業から4月現職。兵庫県出身。17

人手確保に関する要望を聞き「朝から晩まで一日中駆け回った」。都心部の店舗だけでなく、最後は郊外にまで足を延ばした。並行して、外国人留学生らを対象にした求職者集めの手法も検討。日本語学校などを訪問し、担当者からの聞き取りも進めた。

外国人留学生向け求人サイトを新規事業として始めることが決まったのは同年3月末。外国人の労働者が増えているが競合はまだ少ない。橋本は「市場が拡大している分野に乗っかるべきだ」と主張した。飲食店大手からは採用を手伝ってほしいという声が多く、事業立ち上げ後の目算もあった。しかし4月に試験版を始める想定外の事態が起きた。



## 話せる応募者さらに

となるのが、求人企業の面接に送り込める求職者数の確保だったからだ。ところが求人企業からは「求職者に電話してもつながらないし、電話に出てても日本語で答えられない」とクレームが相次いだ。結果、採用されたのは応募者全体のわずか1%。「求職者数は目標に達しているのに、企業側からは対応の手間ばかりかかると不評だった」

求人広告の表記でも問題が発生した。一定水準の語学力がある留学生が応募すること想定し当初は日本語で表記していた。ところが大阪に住む留学生が東京の店舗に応募するなど、募集の内容や条件をきちんと読んでいないことがわかった。

採用に至った企業から手数料を受け取る成功報酬型のため、採用者数が増えるほど収益が拡大する。ただ現状は応募者への注意喚起などに人手がかかるのが実情だ。日本人向け求人の場合応募者の15~20%が採用できるといわれており、一段の改善に向け対策を検討している。

そこで矢張り改善策を打った。5月から6月にかけてベトナム語表記や英語表記を加えた。8月からは応募の手順も変えた。それまでは応募した留学生に店舗から電話をかけていたが、留学生が求人サイトに登録すると店舗の電話番号を表示するようにし、自分で電話してもらう方式に改めた。「求人側の手間が減り、日本語を話せない留学生は面接の予約に至らない効果もあった」。応募者の3%を採用できるまでに改善した。

最近では応募者の7~8%が採用されるようになってきた。同サービスの事業モデルは現在、同サイトを利用する企業は35社で、外国人留学生は2千人。18年中には100社、5千人に増やす考えだ。「留学生が職場に定着し活躍するサービスもつくりだしたい」と次の事業展開を視野に入れている。

敬称略  
（右野孝祐）